

視点Ⅲ 「特別支援教育」の視点を重視した授業改善



「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行う際には、特別支援教育の視点に立って指導・支援を行うことが有効です。

1 特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

はじめに…学びにくさのある子供のアセスメントを実施→学びにくさを把握し、個別の指導計画を作成→PDCAサイクルで実施

Plan ・ UD(ユニバーサルデザイン)を意識した単元構想と授業づくり
 ・ ICT等を活用した一人一人に合った指導・支援の計画

Do ・ 授業の実践 ・ 「個別最適な学び」 ・ 「協働的な学び」

Check ・ 有効な指導・支援について本人(保護者)とともに確認 ・ 課題の把握

Action ・ 個別の指導計画を更新 ・ 本人・保護者との評価の共有 ・ 授業改善

「個別最適な学び」を教員の視点で整理した概念が「個に応じた指導」です。「個に応じた指導」で子供が身に付けたことを、学級等で友達とともに学ぶ集団学習の中で生かすことができるよう、「協働的な学び」を計画的かつ積極的に工夫して取り組むことが大切です。

2 ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・環境整備

- 発達障害等を含む配慮を要する子供に「ないと困る支援」
- どの子供にも「あると便利で、役に立つ支援」

➔ **全ての子供の過ごしやすさと学びやすさの向上**

**ユニバーサルデザインの視点
 焦点化(シンプル) 明確化(クリア) 視覚化(ビジョン)**

ア 焦点化(シンプル)

- 環境づくり(場の設定・音の配慮)
- イメージづくり(間・選択肢・区切り)
- 短い言葉で伝える
- ※ 教員がどれだけ意識して指導することができるかが大切。

イ 明確化(クリア)

- 正しい行動を明確に伝える
- 「いつ・どこで・何を」すればよいのか(大丈夫なのか)教える
- ※ 一斉指導で、または個別に明確に伝えることが大切。

ウ 視覚化(ビジョン)

- 見えないものを見えるようにする
- イメージを助けることで安心を与える
- ※ 視覚化することで、安心して自分から動くことやできることが増える。

学級でのユニバーサルな配慮 ~例~

- 「注意喚起」…注目させてから話す
- 「視覚化」…言葉+実物・絵・文字
- 「簡潔な指示」…一度に一つの指示
- 「復唱」…繰り返し唱える
- 「行動の確認」…今から何をする?



ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを進める際には、「学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引・資料集」も活用してください。



視点Ⅳ 「教育 DX」の視点を重視した授業改善

「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現には、一律・一斉・一方向のみによる授業から脱却する必要があります。そのために、子供自身が ICT を活用して個々の状況、特性に応じて、自ら目標を設定し、学習方法等を自ら選択、自己評価できる学習モデルを創造していく、教育におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進することが不可欠です。

	第1段階 デジタルイゼーション 電子化	第2段階 デフタライゼーション 最適化	第3段階 デジタルトランスフォーメーション 新たな価値
	<p>標準モデルアプローチ 経験・勘による「属人知」</p> <p>デジタル化で効率・効果的に GIGAスクールによる1人1台端末整備等</p>	<p>ICT・データ活用による指導・教育 行政の改善・最適化</p> <p>1人1台端末の効果的な活用 によるデータのフル活用</p>	<p>「個別最適モデル」アプローチ 「集合知」の活用</p> <p>学習モデルの構造等が質的に 変革し、新たな価値を創出</p>
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・県域教育用アカウント整備 ・指導者用端末の整備 ・校務等のデジタル化 ※ アンケート機能の活用やデータ共有によるペーパーレスや校務の効率化等 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分析・利活用により、有用な知見の共有・活用 ※ 学習支援アプリや学習eポータル等を活用した児童生徒の学びの状況等の効率的な把握とそれを踏まえた授業・指導の充実等 ※ 経験等にだけよらない教育・指導技術等の継承 ・新たな情報技術等に関する正しい理解と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学びを「コントロールする」から、「コーディネートする」へのマインドセットの返還 ※ 児童生徒の個やグループの学びの状況等に応じた「個別最適な学び」や「探究的な学び」の創造・提供
学習活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・学習のデジタル化 ※ これまでの教具をICTに置き換えた授業の実施 ※ 学習eポータル、デジタル教科書の活用 ※ 学習支援アプリ等を積極的に活用した学習活動の充実等 	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルとデジタルをベストミックスさせ、人や自然、文化等と「つながる」学習や活動 ※ 遠隔システムを活用した交流等による学びの充実 ※ 学習支援アプリ等を活用してデータを共有したり共同制作したりするなどの「協働的な学び」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した「学びの日常化」 ※ 場所や時間・言語等にとらわれない学び ※ 児童生徒の個やグループ等の特性等に応じた学び ・新たな学びを生み出す授業等の創造 ※ ICTを効果的に活用した「探究的な学び」の充実
子供	<ul style="list-style-type: none"> ・県域教育用アカウント整備 ・学習者用端末の整備 ・児童生徒がICTを活用する場面の拡充 ※ 「教師が使って学ばせるから子供が使って学ぶ」へ ※ 子供自身が「ICTを使って学びを深めた」と実感できる活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・端末等を「日常的」に文房具として活用 ・「協働的な学び」や「探究的な学び」等を通じた「情報活用能力」の習得 ※ 情報や情報技術を主体的に選択し活用していく力 ※ 情報技術を手段として効果的に活用していく力 ※ 情報や情報技術を適切かつ安全に活用するための情報モラル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを「文房具」として日常的に使用しながら、主体的に考え、多様な他者と協働的に議論し、「納得解」を生み出していく力 ・ICTを日常的に活用することにより、自らの学習を調整しながら学んでいくことができる力

1 タブレット端末利用の日常化・文房具化

「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現に向けて、タブレット端末を活用しましょう。

子供が場所や時間・言語等にとらわれない学びや、個々やグループ等の特性に応じた学びを実現するためには、タブレット端末を、教師の指示に限らず、児童生徒自身が必要な時に必要な方法で、文房具のように日常的に利用できるようにする必要があります。これにより、子供は、自らの学びを調整しながら学び進めていくことが可能になります。

2 教育データの利活用

ICTにより蓄積された教育データを有効に活用し、指導に生かしましょう。

- 子供の学習履歴や学習成果物等のデータを基に児童生徒の学びの特性を把握し、それに応じて指導の個別化を図ったり、子供自身が学習方法を選択したりすることができるように指導します。
- AIドリル等を活用することで、習熟状況をリアルタイムで確認できます。一人一人の子供の学習進度や課題に応じた練習問題を自動で表示させるなど、主体的に学習に取り組めるようにします。

- 学習系と生活系のデータ(出席状況, 心の健康状態など)等, 様々なデータの相関により, これまで教員の勤や経験だけに頼っていたものに, データによる裏付けを加えることで, より子供を適切に理解し, 指導・支援に生かすようにします。

3 学習者主体の家庭学習

タブレット端末の持ち帰りにより, 主体的に家庭学習に取り組めるようにしましょう。

タブレット端末の持ち帰りにより, 学校における授業と主体的な家庭学習の往還が可能となります。

端末を活用した家庭学習例

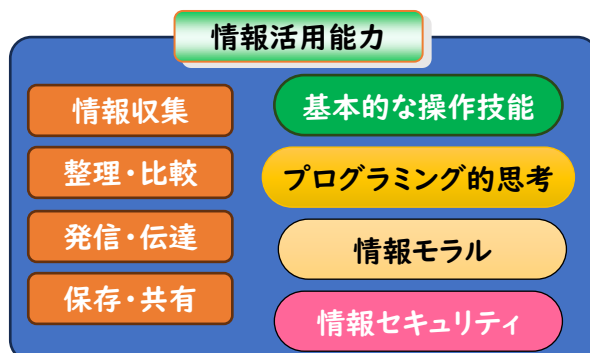
- グループで一つのプレゼンデータをそれぞれの家庭から共同編集する。
- それぞれが作成した発表データお互いにコメントを入れる。
- 学習のまとめを動画で作成する。
- 技術・家庭科や音楽科, 保健体育科など, 家庭での取組を動画に撮って提出する。等

4 学習の基盤となる情報活用能力の育成

教科等横断的な視点から, 学習の基盤となる情報活用能力の育成を目指しましょう。

学習指導要領解説【小・中学校】総則編から抜粋 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

各学校においては, 子供の発達の段階を考慮し, 言語活動, 情報活用能力(情報モラルを含む), 問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう, 各教科等の特質を生かし, 教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。



ICT活用は, 授業の目的達成のための手段であり, 子供の情報活用能力を育てるものです。また, 校務に活用することで教育DXを推進し, その便利さを授業に生かしていくことが必要です。



文部科学省
「StuDX Style」
(スタディーエックススタイル)

←文部科学省「StuDX Style」



総合教育センター
「鹿児島県GIGAスクール
構想の実現に向けて」

←総合教育センター「鹿児島県GIGAスクール
構想の実現に向けて」



総合教育センター
「ICT活用資料」
(県域アカウント活用など)

←総合教育センター「ICT活用資料」



鹿児島県教育委員会
「100人の1歩のための100の
ヒント」

←鹿児島県教育委員会
「100人の1歩のための100のヒント」

※県域アカウントによるログインが必要です。

Ⅲ 「学習者主体の授業」による学びの質の向上

Ⅰ 「学習者主体の授業」は、具体的にどのように進めればよいですか

Answer

育成する資質・能力を踏まえた上で子供に学習を委ねる場面や、子供自身が自己選択・自己決定できる機会を意図的に設定しながら進めていくことが考えられます。

- 「学習者主体の授業」では、子供が自ら「問いを発見する」、「解決の方法を見通す」、「課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する」、「自らの学びを振り返り、次に生かす」といった活動に取り組み、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けていきます。その際、問題解決の場面において、子供がICTや、ノート、ワークシート、具体物などの道具等や、個、ペア、グループなどの学習形態、あるいは学習時間も自己選択・自己決定しながら学習に取り組む姿が考えられます。
- また、問題解決の場面において、図や言葉などを用いた解決方法や、学習目標などの課題設定までも自己選択・自己決定しながら学習に取り組む姿も考えられます。
- ところで、このように子供に委ねる授業は、いわゆる「放任」に当たるのでしょうか。
- 私たちはそうは考えていません。「学習者主体の授業」が目指すものは、子供たちが自己肯定感や自己調整力といった非認知能力も含めた「学びに向かう力、人間性等」に加え、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力をバランスよく身に付けることです。
- その実現に当たっては、学習指導要領等を用いた入念な教材研究により、子供に育成する資質・能力を分析することから始まり、単元・題材を通して各教科等における「見方・考え方」を働かせながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるよう、学習環境整備も含め、授業をデザインすることが重要です。
- 以下に、「教師主導の授業」と「学習者主体の授業」の特徴を例として示します。

【「教師主導の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- 子供が個々に教師に向かって話す。
- 子供がただ板書を写している。
- 教員の指示を待っている。
- 挙手をする子供が決まっている。
- ノートへ積極的に書こうとしない。
- グループ学習ではいつも見ているだけの子供がいる。
- 対話に目的がなく、ただ話している。



～教員の姿勢～

- いつもしゃべっている。
- 子供の発言を解説する。
- 子供と一問一答が多い(黒板の前から離れない)。
- 板書を書くこと、写させることに徹している。
- 挙手をする子供(同じ子供)に指名をする。
- グループの代表の子供に順番に発表させる。



授業

- ・ 同じ内容を同じ方法で、同じペースで進める授業
- ・ 教師の指示通りに進められる授業

子供の姿

- ・ 受け身で教師の指示を常に待つ姿
- ・ 指示や内容に疑問を感じず行う姿

教員の姿

- ・ 「知識及び技能」といった「見えやすい学力」に重点をおいた指導をする姿
- ・ 子供が周りと同じように行動することを前提とした姿

(出典)「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年4月10日】(ぎょうせい)」を基に作成

【「学習者主体の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- 子供が自ら問いをもつ場面がある。
- 子供が問題解決に向けて見通しをもっている。
- 子供が黒板、教科書、ノート、ワークシート、タブレット端末等を自分で選択し、学びを進めている。
- ネット環境を活用し、様々な角度から情報を適切に集めて考えをまとめている。
- 子供が問題解決のときに、分からない友達に教えたり聞きに行ったりしている。
- 子供が授業内容によって個、ペア、グループで学ぶことを選択している。
- 子供が各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面がある。
- タブレット端末のアプリなどを活用し、友達と意見を比較しながら考えている。
- 発表する相手を意識し、著作権などに配慮した発表データをつくっている。
- 子供全員が考えを出せるホワイトボード・短冊・付箋・タブレット等を使っている。
- 子供が友達の意見に関連付けて自分の意見を発表している。
- 子供が自分の言葉でまとめを書き、まとめた内容は課題と一体となっている。
- 子供が学んだ内容や、自分の学び方についてそれぞれ振り返りを行っている。

～教員の姿勢～

- ICTを活用して資料等を大きく見せている。
- 端末を持ち帰らせるなどして学びが連続する家庭学習の工夫をしている。
- ICTを活用し、友達と協働できる学習の工夫をしている。
- 子供が一人で考える時間と協働する時間のバランスを工夫している。
- 子供が、各教科における「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けているかどうかを見取っている。



※ イラストは「Image Creator」(画像生成AI)において「ICTでグループ学習をいきいきと楽しそうに行う授業 教員は子供を見守る デジタル アート イラスト」と入力し、作成

授業

- ・ 子供それぞれの興味・関心や学習進度に応じた授業
- ・ 子供が解決の方法を自分なりに選択・判断する授業
- ・ 子供が自分の学びを振り返り、次に生かしていこうとする授業

子供の姿

- ・ 意図をもって、主体的に課題に取り組む姿
- ・ 一人一人が自分の課題解決に向けて、試行錯誤を繰り返す姿
- ・ 協働してものや考えを創り出す姿

教員の姿

- ・ 「思考力、判断力、表現力等」といった「見えにくい学力」や「学びに向かう力・人間性等」といった「見えない学力」も大切にする姿
- ・ 子供たちを信じ、可能な限り学習を委ねる姿
- ・ 一人一人のよさに着目し、そのよさを伸ばそうとする姿

(出典)「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年4月10日】(ぎょうせい)」を基に作成

2 「学習者主体の授業」を進める上で、教員はどのように関わればよいですか

Answer

教員は「ファシリテーター的な役割」として、子供たちそれぞれの学びを見取り、指導に生かすことを重視して関わるのが大切になります。

- 授業を山登りで例えてみると、授業の目標となる山頂を目指すルートは様々あります。どのルートをどれくらいの時間でどのように登るのかは、人それぞれ違います。
- そのことを踏まえると、授業において、教員が準備するものや学習形態、時間などの全てを一律に示してしまった場合、子供たちはどのように感じるでしょうか。
- 子供は「有能な学び手である」と信じて、まずは子供たちに委ねてみる。そして、子供たちがどのようにつぶやいているのか、何を書いているのかという姿（事実）をしっかりと見取り、その姿を認める。その上で、困っている子供が求めたタイミングで必要な内容を提示できるように万全に準備しておく。
- このように支援することが「ファシリテーター的な役割」であり、こうした関わりによって、子供たちは主体的に学習に取り組むようになると考えています。

有能なファシリテーターは例えば・・・

【前提として】子供は「有能な学び手である」と信じる。

↓ その上で



① 準備万端!

- 子供たちにとって、課題解決したくなる問題や内容等を提示する。
- 本単元で育成する資質・能力を子供たちと共有する。
- 学びに関わる多くの決定を子供に委ねられるように、単元構成や内容を工夫・開発する。
- 試行錯誤できる場や時間を設定し、必要となる資料や教具などを準備する。

② しっかり伴走!

- 子供のつぶやきや反応から、何にこだわっているか、どこにつまずいているかをしっかりと見取り、認める。
- 子供に合わせて、立ち止まって一緒に考えたり、新たな視点を与えたりする。
- 振り返りを行わせ、子供の伸びや成長をしっかりと価値付け、賞賛する。



NITSの研修動画は、教員が主に自己学習のために活用することを想定し、10分程度で作られています。職員研修の参考資料として活用してみましょう。

← NITS (独立行政法人教職員支援機構)「実践力向上シリーズ動画」

3 「学習者主体の授業」の進め方について、実践例はありますか

Answer

P16 から具体的な実践例を五つ紹介します。

実践例では、子供に育成する資質・能力によって、どのような自己選択・自己決定の機会を確保するかという視点をもつとともに、その視点で振り返ったり、学びを調整したりする場面を設定しています。

その際、授業において子供が自ら問いを発見したり、解決の方法を見通したり、協働しながら解決に向けて試行錯誤したりするとともに、学びを振り返る場面を設定することで、学び方を身に付けさせることが重要です。

例えば、総合教育センターでは、学習者が選択する視点として以下の五つを示しています。
(P25 下部にリンクがあります。)

学習者が選択する視点とは



「道具・活動」の自己選択・自己決定

ノート，黒板，具体物，タブレット端末，体験など



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

一人で考える，ペアで考える，グループで考えるなど



「学習時間・ペース」の自己選択・自己決定

考える時間，説明する時間，解説を聞く時間など



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

図，言葉，書く，聞くなどして考える



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

学習課題，内容，対象，適応問題など

学習者主体の授業



子供が自ら問いを発見する

「どうしてこうなるのかな」、「それはどういうことかな」

子供が自らの学びを振り返り、次に生かす

「この方法がよかったな」、
「これがよくなかったから、次はこうしたらいいぞ」

子供が解決の方法を見通す

「何か使えそうな考えはないかな」、
「この方法でやってみたいな」



子供が課題解決まで試行錯誤を繰り返す、協働する
「できるまで挑戦するぞ」、「あの友達に聞いてみよう」

4 実践例

実践例 1

実践例1 小学校理科 始良市立建昌小学校 第5学年 「物の溶け方(物が水に溶けるとき)」

「学習者主体の授業」づくりのポイント

溶けて見えなくなった食塩は水の中に存在するのか、各班で予想し確かめる観察、実験の計画を立案するようにしている。

その際、実験器具一覧を参照しながら使用器具を選択し、具体的な計画が立てられるようにするとともに、結果の見通しを明確にするよう働き掛けている。

そして、各班で3単位時間を計画的に使い、観察、実験と結果発表の準備を進めるようにしている。

実践例 2

- 食塩の溶ける様子を観察し、学習課題をつかむ。

【学習課題】

溶けて見えなくなった食塩は、水の中にあるのだろうか。



食塩が溶けた水は、食塩の味がするから見えなくなっても水の中にあるはずだよ。



食塩は溶けて小さくなったから見えないのであって、水の中にはあるんじゃないかな。

実践例 3

予想が立ちましたね。それでは、実験器具一覧を参照しながら、予想を確かめるための観察、実験計画を立案しましょう。方法や結果をしっかりと伝えるために記録の仕方も工夫するといいですね。



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

実践例 4

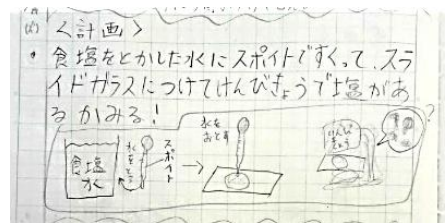
- 予想を確かめる観察、実験計画を立案する。



実験をして発表するまでに3時間しか使えないんだね。どんな実験ができるかな。



味がするかを確かめるのは危険だからしてはいけないね。安全にできるかもよく考えて計画しよう。



- 各班の予想に応じて実験器具を選択し、観察、実験計画を立案する。

💡ポイント💡

- 既存の経験等から理由を挙げ、予想を立てるよう働き掛け、それを確かめる観察、実験計画を各班で発想し、表現するようにします。その際、結果の見通しまで明確に記述するよう促すと効果的です。
- 実験器具一覧を参考にして使用器具を選択し、具体的な計画を立てるよう促すと効果的です。
- 教師は、安全性について予備実験をするなどし、十分に確認しておきます。
- 実験の様子をタブレット端末で撮影しておく、学習を振り返る際に効果的です。

実践例 5



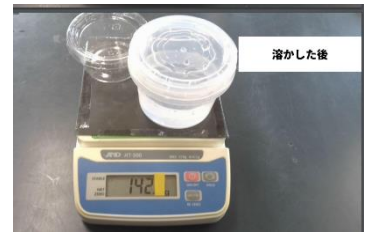
「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

○ 各班で計画した観察, 実験を行う。

【溶けた食塩が水溶液中にあることが確認できた観察, 実験】



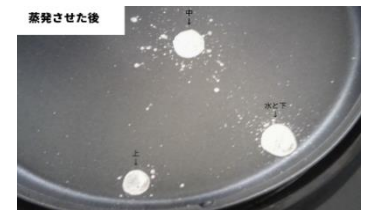
食塩を溶かす前後で全体の重さを量り重さが変わらなければ, 溶けた水の中に食塩があると言えるよね。やっぱり, 全体の重さは, 溶かす前後で変わらなかったよ。



食塩を溶かした水を植物に掛け植物が枯れれば, 溶けた水の中に食塩があると言えるよね。植物が枯れたから, 溶けた食塩は水の中にあると言えるね。



食塩を溶かした水を上・中・下部分から取り蒸発させ, 食塩が出てくれば, 溶けた水の中全体に食塩があると言えるよね。
水溶液の上・中・下のどこからも食塩が出てきたよ。



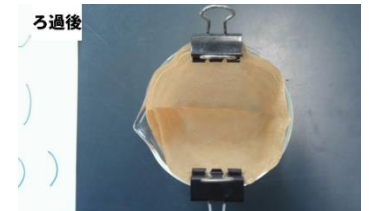
【溶けた食塩が水溶液中にあることが確認できなかった観察, 実験】



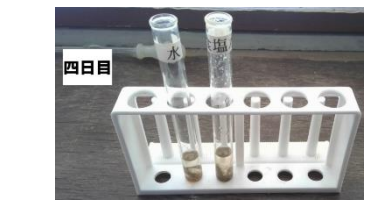
食塩を溶かした水を顕微鏡で観察し, 食塩の粒が見えれば溶けた水の中に食塩があると言えるよね。あれ? 食塩の粒は見えないよ。



食塩を溶かした水をコーヒーフィルターを通して食塩がフィルターに残れば, 溶けた水の中に食塩があると言えるよね。あれ? 食塩は残らなかったよ。



食塩を溶かした水に鉄釘を浸けておき, 鉄釘が錆びれば, 溶けた水の中に食塩があると言えるよね。あれ? 水だけの場合も錆びたよ。



「道具・活動」の自己選択・自己決定

○ 各班の観察, 実験の結果及び考察を発表し合い, 質疑応答を行う。

💡 ポイント 💡

- 各班の考察の妥当性について多面的に検討できるよう, 互いの結果や質問したいことを記録するワークシートを活用すると効果的です。
- 考察が具体的になるように, 各実験からどんなことが分かるのか確認します。その際, 顕微鏡観察では班によって結果(主張)に違いが見られることがあるため, 顕微鏡アダプタを大型モニタにつなぎ, 食塩が溶ける様子を全員で観察すると効果的です。

実践例2 中学校社会科 鹿屋市立鹿屋中学校
第1学年 地理的分野「世界の諸地域 ヨーロッパ州」

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- **単元を貫く学習課題**「ヨーロッパ州は、今後、国どうしのつながりを更に強めた方がよいのだろうか。」を**設定**し、探究的に課題解決を行えるようにしている。
- 第1時ではヨーロッパ州を概観した後、EUの理念やイギリスの脱退などを取り扱い、生徒は、EUによる国々の結び付きに関する利点や課題について学習する。
- 第2時（本時）は、単元を貫く学習課題の解決につながりそうな**追究課題を個人で設定する**時間とし、第1時におけるヨーロッパ州の概観の学習を基に、**六つの観点**を設ける。そして、生徒は、興味・関心に応じて選択した観点から見た単元の学習課題に対する初発の考えを踏まえて、自分の追究課題を設定し、追究の見通しをもつ。

- 前時（1／6時間）の復習をする。
 - ヨーロッパ州の主な国や地形等の名称を確認する。
- 単元の学習計画を確認し、本時の学習課題を設定する。

【単元の学習計画 全6時間】

時	学習内容
1	ヨーロッパ州の概観
2	個人の追究課題の設定
3	追究活動①
4	追究活動②
5	追究結果の発表（交流）
6	単元の学習のまとめ

【学習課題】（2／6時間）
単元の学習課題を追究するために、どのようなことをこれから学習すればよいだろうか。

この単元を貫く学習課題の解決に向けて、自分の課題に基づいて追究し、その結果を交流することを通して、考えを深めることがこの単元の目標となります。



- 単元を貫く学習課題に対して、どのような観点から「EUの結び付き」を捉えることがよいか考える。

💡 **ポイント** 💡

- 観点は何でも生徒が自由に設定すればよいというものではなく、**単元の課題追究を通じて働かせてほしい教科の「見方・考え方」**を基に、**教員があらかじめ準備しておくことが重要です。**
- ここでは、前単元（アジア州）や前時で学習した事項を基に話し合い、6点（民族・宗教、経済・貿易、農業、工業、住居・労働、買い物・旅行）に整理します。



「課題・めあて」の自己選択・自己決定



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

- 観点を選択し、単元を貫く学習課題に対する現時点での考えを書く。



経済・貿易の観点から追究していくことにしよう。



私は、買い物・旅行の観点から追究していくことにしよう。



- 選択した観点を踏まえて、自分の追究課題を設定する。

💡ポイント💡

- 生徒の興味・関心に応じて、観点を選択できるようにします。進捗状況に応じて複数選択しても構わないことを伝えておくことも効果的です。
- 個の状況に応じて課題設定の支援を行いつつ、追究課題を立てられない場合は、他者の意見を参考にしてもよいことを生徒に伝えておきます。その際、選択した観点はスプレッドシートに入力し、学級で共有できるようにしておくことも効果的です。



「道具・活動」の自己選択・自己決定

- 今後の追究や発表について見通しをもつ。

💡ポイント💡

- 今後の学習について、教師が例を示し、自分なりの追究や発表の方法を選択してよいことを確認します。
- 調べる力に個人差があることが考えられるため、選択した観点に応じて、参照する資料や調べるキーワードを提示すると効果的です。
- 希望者に配布できるよう白地図、ワークシートも準備しておくことも効果的です。

- 本時の学習について振り返りを行う。



次の時間で使う追究課題を設定することができた。最初は難しかったけれど、EUと関連付けて書くと、結構思い付くことができた。

ヨーロッパに対してのいろいろな疑問が生まれた。友達と交流すると、なるほどと思うことがたくさんあった。

実践例3 中学校数学科 鹿児島市立伊敷中学校
第3学年「相似な図形」

実践例1

「学習者主体の授業」づくりのポイント

授業展開時の自己調整タイム(25分間)で、

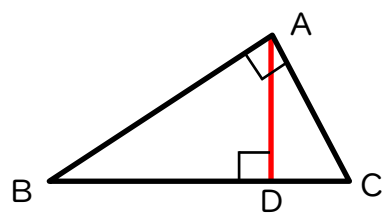
- 課題・めあて(難易度の異なる学習課題)
- 学習形態・スタイル(個, ペア, グループ)
- 道具・活動(動画による教師の解説視聴, 友達との協働解決など)を自己選択・自己決定し, 学習に取り組むことができるようにしている。

実践例2

- 自己調整タイムの前提となる基礎的・基本的な内容については, 全員で確認し, レディネスをそろえておく。

【学習課題】

$\angle A = 90^\circ$ の直角三角形ABCで、
頂点Aから辺BCに垂線ADを引くとき、
 $\triangle ABC \sim \triangle DBA$ であることを
証明しなさい。



解決方法について確認できましたね。それでは、自分が取り組んでみたい課題を選択して取り組みましょう。解決するための方法や学習形態も自分で選択してくださいね。



実践例3



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

- それぞれの実態に応じて課題を自己選択・自己決定する。

- 難易度の異なる課題①～③を選択



相似条件を使って証明することはあまりよく分からないよ。
自信がないから課題①からやっていこう。



【学習課題】については十分よく分かったから、難しい問題にもチャレンジしてみたいな。できるかは分からないけど、課題③をやってみよう。

実践例4

💡ポイント💡

- 単元のまとまりの中で育成したい資質・能力を明確にした上で教材研究を行い, 課題を準備することが重要です。
- 課題を与えっぱなしにならないことが、単元のまとまりの中で「チェックテスト」や, タブレット端末のAIドリルに取り組むなど, 育成したい資質・能力が定着しているかを適切に見取る場面を設けることが重要です。

実践例5



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

- それぞれの実態に応じて学習形態を自己選択・自己決定する。



とりあえずできるところまで自分一人でやってみよう。

課題③は難しいね。ここまでは解けたんだけど合っているかどうか、考えを聞いてほしいな。



💡ポイント💡

- 広いスペースが準備できない場合であっても、グループをつくったり、子供が自由に移動しても構わないという雰囲気をつくったりしておくと効果的です。
- 机間指導を行いながら、子供の進捗状況を把握したり、つまづいている子供に支援したりすることが重要です。

- 個で学習
- ペアで学習
- グループで学習



「道具・活動」の自己選択・自己決定

- それぞれの実態に応じて道具を自己選択・自己決定する。



先生が解説している動画もアップされているから、それを使ってみよう。まずはそれをしっかり見ながら課題に取り組んでみよう。

みんなで取り組んでみても分からなかったなので、続きを先生に聞いてみよう。



💡ポイント💡

- 教科書やノートだけでなく、思考の手助けとなるワークシートや、ヒントカード、一人一台端末で配信できる解説動画や友達、教員の支援など、子供が解決方法を自己選択・自己決定できるようにしておくことが重要です。

- ワークシートで学習
- 解説動画で学習
- 教科書で学習
- 教員に聞きながら学習

実践例4 小学校外国語活動 鹿児島市立田上小学校
第4学年「Unit8 This is my favorite place.」

実践例1

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 導入場面において、Small Talk で教師のモデルを示し、見通しをもたせるようにしている。また、「振り返りカード」を基に前時までの課題等を確認させ、学習課題を「CAN-DO リスト」の形で示し、何ができるようになるのかを具体化する **本時の「マイゴール」を個々で設定**することができるようになっている。
- 展開場面では、**課題解決に向けた解決方法について選択する機会を設ける**ことで、自分の状況に応じた学習を自ら設計することができるよう工夫している。
- 終末場面では、「振り返りカード」を活用し、**自己の学習状況について適切に把握させ、学習の調整が図られる**ようにしている。星の数等で確認し、自己の取組を視覚的に把握できるようにしている。また、これからの学習に生かすことができるように、デジタルポートフォリオとして振り返りを全体で共有できるようにしている。

実践例2

- 本時の学習課題を確認する。

【学習課題】

お気に入りの場所に道案内し、その場所について考えや気持ちを伝えることができる。

- 「CAN-DO リスト」の形で示し、本時の学習を通して何ができるようになりそうか、どうすれば課題を達成できるかということについて見通しをもたせる。

これまで学んだことを使って、道案内やお気に入りの場所について伝えることができるようになるんだね。そのためにまだ足りないことは何だろう…。



実践例3



「課題・めあて」の自己選択・自己決定

実践例4

- 課題解決に向けた「マイゴール」を設定する。

これまでに学習してきたことを踏まえてお気に入りの場所に道案内したり、その場所について考えや気持ちを伝えたりするために、今日はどのような学習しますか。「マイゴール」を設定しましょう。



「マイゴール」は、「スラスラ道案内ができるようになる」に設定しよう。



実践例5

💡 ポイント 💡

- 子供一人一人に合った学びを進めることができるように、「マイゴール」を設定し、**課題解決したいことと、そのための方法や順序について選択する機会**を設けます。



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定

「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

○ 課題解決に向けた学び合いを行う。



道案内に必要な語彙や表現の音声を確認することができる「学びのお助け箱」を使って練習してみよう。

上手く伝わっているか、動画に録画をして確認してみよう。

- 音声カードで学習
- 録画による確認



友達に伝えてみて、表情や伝わりやすさについてアドバイスをもらおう。

上手く伝わるかどうか、先生に見てもらってアドバイスをもらおう。

- 友達と学習
- 先生と学習



💡 ポイント 💡

○ 現在の自分の学習状況を具体的に把握させ、自分が何をどの順番で行うべきかを考えさせたり、選択した活動が効果的であるかを常に評価させながら活動させたりすることで、児童が自ら学習を調整しようとする姿が見られるようになり、児童の「学ぶ力」の育成が期待できます。



「道具・活動」の自己選択・自己決定

○ 本時の学習について振り返りを行う。

「教室・場所」の単語、「お気に入りの場所に道案内する」表現が言えた	相手に「お気に入りの場所に道案内する」ことができた。	相手に「お気に入りの場所に道案内する」ことができるように工夫して練習できた
-----------------------------------	----------------------------	---------------------------------------

☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆
------	------	------

【マイゴール】 右、左を正確に言えるようにし、相手に言われてもすぐ分かるようにする。

【ふり回り】 道案内を友達と繰り返し練習したら、今日のマイゴールが達成できた。そして、相手が道案内している時、右や左と言われてすぐ、分かるようになった。お気に入りの場所を伝える時に、「Do you like～」も使えるようになった。



💡 ポイント 💡

○ 学びによる成長の自覚や課題の把握ができるよう、ICT を活用して振り返りカードで学習状況を視覚化したり言語化したりできるようにしておくことが有効です。

実践例5 中学校国語科 長島町立平尾中学校
第3学年 「作品を通して考えたことを登場人物へ宛てた手紙にまとめよう(温かいスープ)」

「学習者主体の授業」づくりのポイント

- 目的意識を明確にするために、導入時に学習活動の内容や流れ、時間配分等をプレゼンテーションソフトで示すようにしている。
- 単元の導入では、「リテラチャー・サークル」を活用した「役割読み」を行い、担当した役割の中で、「言葉による見方・考え方」を働かせるよう工夫している。
- 主体的に課題追究できるよう、追究の視点や資料(カード)を送信し、必要に応じて活用できるようにしている。
- 追究したことを基に自分の考えを登場人物への手紙にまとめる際、手書きで表現するかデジタルで表現するかを選択できるようにしている。
- ロイロノートに自分の考えを蓄積するよう働きかけ、学習前後の自分の考えを比較して変容を確認することで、考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
- リフレクションシートを活用し、毎時間及び単元全体の振り返りが1枚で分かるようにしている。また、リフレクションシートに「学びの集中力」という項目を設け、3段階で自己評価することで学習への取組を振り返るよう促している。

- 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。

【学習課題】

担当する役割の視点で作品を読み、追究したことを役割グループで共有しよう。

- 学習の見通しがもてるよう活動内容や流れをプレゼンテーションソフトで提示する。

「温かいスープ」～第2時：活動の詳細～ 質問係 照明係 つながり係

◆第2時は、担当する役割で作品を通読し、読み取ったことや考えたことを役割グループで共有します。

- 1 読み取ったことを役割シートへ記録する。
- 2 考えたことや感じたことを伝え合う。
- 3 作品に表された考え方について着目した表現などを基に話し合う。
- 4 本時の学習を振り返る。(G→個)

※1～3の
① 時間配分
② 活動形態
(個orペアorグループ)
は、各グループで決めます。

この單元では、様々な視点で読む活動を通して、読みを深める学習をします。



実践例1

実践例2

実践例3

実践例4

実践例5



「解決方法・考え方」の自己選択・自己決定



「学習時間・ペース」の自己選択・自己決定



「学習形態・スタイル」の自己選択・自己決定

- グループでの話し合いに向けた役割の視点で通読する。
 - 読み取ったことを役割シートへ記入する。
 - 考えたことや感じたことを伝え合う。
 - 作品に表された考え方について、着目した表現を基に役割グループで話し合う。

〈役割グループの視点〉

- ①質 問 係 … 問いをもちながら読む。
- ②照 明 係 … 効果的・特徴的な文章表現に着目しながら読む。
- ③つながり係 … 自分の知識や経験と結び付けながら読む。



💡ポイント💡

- 時間配分や活動形態をグループで設定できるように促します。
- 追究の視点を明確にするために、役割を示した「役割カード」を活用して、叙述を読み取るようにします。
- 着目した叙述について感じたことや考えたこと、他者の考え等を記録するように働きかけると効果的です。
- 話題についての話し合いを深めることができるよう、共感、言い換え、問い掛け、根拠の確認等の視点を意識するように働きかけると効果的です。

- 役割グループで本時の学習を振り返った後、各自で振り返る。
- 次時の学習の見通しをもつ。

💡ポイント💡

- 叙述に着目した事柄や自分の役割に対する取組について振り返り、リフレクションシートへの記入を促します。



各教科において、学習指導要領の趣旨を踏まえた教材研究は欠かせません。参考資料はこちらから。

←総合教育センター
「学習指導要領の趣旨を踏まえた教育の改善に関する研究」



総合教育センター令和5年度調査研究発表会のまとめはこちらから。

←総合教育センター
「令和5年度調査研究発表会」



全43市町村教育委員会から提出していただいた「学習者主体の授業」実践例はこちらから。

←鹿児島県教育委員会
「学習者主体の授業」実践例」



教科等の課題及び総合的な課題解決に資する基礎的・総合的な調査研究を基にした参考資料はこちらから。

←総合教育センター
「指導資料（令和5年度発行分）」

